

今月の安全運転管理

冬の道 ゆっくり走って スリップ防止

①冬に起きるトラブルを知っておこう

- 冬のバッテリー上がりに備えよう
- スリップ事故を防ごう

②体調に気をつけよう

- 体調不良時の運転は控えよう



冬のバッテリー上がりに備えよう

冬場は寒さから思いがけないトラブルが発生するおそれがあります。代表的なトラブルとして、バッテリー上がりが挙げられます。

バッテリーは寒さに弱く、冬場は電装品等を使用する頻度も多くなるため、バッテリー上がりを警戒しなくてはなりません。日常点検時には、バッテリーの液量等を点検するとともに、エンジンがかかりにくいといった場合には、バッテリーの寿命が近づいている可能性があるため、早めに交換しておくことです。

バッテリー以外にも、エンジンオイル、冷却液、ハンドウオッシュャー液、ワイパーなどの点検・整備を実施し、車両トラブルの防止に努めましょう。

また、万が一のトラブルに

備えロードサービス業者等を確認しておきましょう。

凍結路面に合わせた運転を行い事故を防ごう

本格的な冬を迎えました。冬は気温が下がることで路面が凍結することがあります。降雪の少ない地域でも、雨が降って濡れた路面が夜間の冷え込みで凍結したり、日陰になつている路面は凍結しやすくなっています。このような場所で急ブレーキをかけるといった操作をすると、スリップ事故を起こすおそれがあります。

そこで、凍結しやすい場所では、急なブレーキやハンドル操作を避け、スピードを落として慎重に運転することを心掛けましょう。また、凍結している路面では停止距離が長くなるため、前車との車間距離を十分にとり、ゆとりをもって減速できるようにしましょう。

体調が悪いときは運転を控えよう

冬は、気温の低下や空気の乾燥により、体調を崩し、風邪やインフルエンザなどにかかる人が増える季節です。体調が悪いと感じたら、運転を控えることを指導しましょう。

体調が悪いときに運転を行うと、体調不良による発熱や喉の痛みなどにより、集中力が低下して、危険発見の遅れや判断操作ミスを起こし、事故へとつながる危険があります。また、運転中に体調が急変した場合は、運転を制御できず、他人を巻き込む重大な事故を引き起こすおそれもあります。

朝礼や点呼時に体調が優れないと思われる運転者に対しては、運転を控えさせ、十分に休養をとり、体調の回復を指導しましょう。